

児童 相手の心理議論

大宮南小で「予防教育」研修会

教員ら模範授業を参観



自分を大切にし、相手を思いやる気持ちを育めることで、いじめや暴力、不登校を防ぐ

「予防教育」の教員向け研修会が14日、京丹後市の大宮南小であり、鳴門教育大予防教育科学センターの研究者が6年生に模範授業を行った。

研修会は市教委が主催した。丹後地域は近年まで自殺者の人口比率が高く、府の対策の一環。予防教育の本格的なプログラムを府内で初めて導入した。授業は、センターの

相手の気持ちをどう読み取るかをテーマにし合う児童たち(京丹後市大宮町奥大野・大宮南小)

内田香奈子専任講師が行った。他人の気持ちを読み取る際の「よく注意しないと分からない特徴」を、6年の20人が5班に分かれて考えた。児童は「勉強に集中していない」「がっかり」「口数が少なくなる」「眉間にしわが寄る」(怒り)、「ふふふと笑う」(喜び)などと発表。感情が、どのような行動に表れるかを話し合った。

京丹後市の小中学校では来年度以降、予防教育を取り入れる。教職員や、福祉・保健担当の自治体職員ら約60人が参観した。

(石崎立矢)